



▲森山町にある「天狗山」

国時代、加治田城（富加町）の砦が築かれ戦乱の舞台となりました。

江戸時代、上古井村は当初幕府領でしたが、元和元年（一六一五年）に尾張藩領となりました。

この村は、美濃加茂盆地の最上流の河岸段丘上にあるため灌漑用水に恵まれず、同じ村でありながら場所と年によ

つて米の収穫高に大きな差ができました。

上古井村の石高（年貢の徴収基準）は八七四石でしたが、その内二五〇石余は散田（耕作する人がいなくなつた田、荒れた田）でした。また、本郷と森山・川合とでは、年貢の率も別々に決められていました。

ふるさと 資料紹介

= ⑤ =

史料と地名からみた
地区の歴史⑤

古井（一）

長享元年（一四八七年）、京都の「大乘院寺社雑事記」という文書に所領名の一つとして「こび」と書かれているのが「古井」の最初です。

その後、弘治年間（一六世

紀半ば）に斎藤義竜の出した文書の中で「古井地頭」「こび」という言葉が出てきます。このころから「古井」は「こび」と呼ばれていたことが分かります。

この地名については、かつてこのあたりに古い井戸があり、それから発生したとの説もありますが由来は不明です。

森山町の「天狗山」には戦